

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社広島メタルマシナリー 広製作所

(2) 事業所の所在地

広島県呉市広白岳1丁目2番43号

(3) 業種

製鋼・製鋼圧延業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成18（2006）年度を基準年度とし、平成28（2016）年度から平成32（2020）年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、環境の保全を経営の重要課題と位置付け、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。特に、今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動のみならず、当社の製品を使用する消費者のことも考慮し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2 方針

- 省エネルギー、省資源の推進
- 新エネルギーの導入促進
- 環境にやさしい製品の提供
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- グリーン購入の推進
- 環境保全活動への積極的な参加
- 社員への環境教育の徹底

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成18年度	平成28年度
二酸化炭素	94,280	95,165

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成18年度	平成28年度
二酸化炭素	45	0

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成18年度)	削減目標		目標年度 (平成32年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	94,280	2.0	1,886	92,394
非エネルギー起源CO ₂	45	100.0	45	0

メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	エネルギー期限CO2は排出量を5年で2%の削減率 電気は中国電力の実排出係数を使用			

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位置量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標 削減率 (d)	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2				#VALUE!			
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

項目	数値目標	具体的な取組み
1 燃料使用量の削減	・エネルギー消費原単位を前年比1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ型熱源機器への更新 ・温室効果ガスの排出の少ない燃料への転換 (A重油の使用量を100%削減済) ・廃油の焼却処理時の燃料化 ・取鍋感想での木型屑の燃料化 ・低公害車の率先導入 ・アイドリングストップ等エコドライブの実践
2 電気使用量の削減	・エネルギー消費原単位を前年比1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房温度の適正管理 ・省エネ型電気機器への更新 ・高性能インバータ機器への更新 (15T電炉の電流調整装置のインバーター化実施済) ・高効率照明器具への更新 ・休憩時間の消灯の徹底 ・用水使用量の節約 ・コジェネレーションシステムの導入 ・消化ガス発電施設の導入検討
3 メタン及び一酸化二窒素排出量の削減	・メタン及び一酸化二窒素排出量を削減	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率バーナーの導入
4 その他温室効果ガス排出量の削減		<ul style="list-style-type: none"> ・フロン代替ガスへの転換 ・温暖化係数の低いガスへの転換

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

種類	合計量
1	
2	
3	

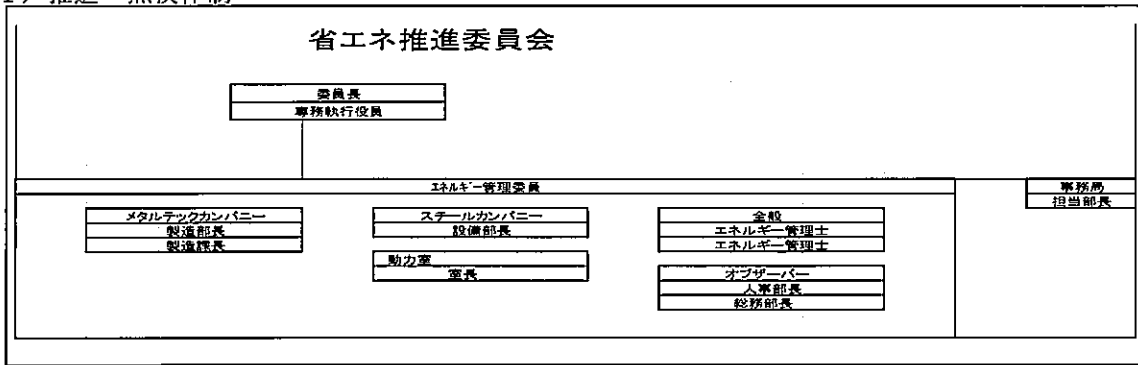
○ その他の取組み

項目	数値目標	具体的な取組み
1 廃棄物排出量の削減	・コピー用紙使用量を5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・両面コピー、裏面利用 ・分別収集及び資源化の励行
2 リサイクル率の向上	・リサイクル率を5%向上	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳鋼切断スケールの鉄分回収 ・リサイクル品の全品回収
3 その他		<ul style="list-style-type: none"> ・週一回の清掃奉仕活動の実施 ・公共交通機関の積極利用

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

省エネ委員会を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

省エネ委員会を通じ、計画の連絡を行う。